

➤ 地域活性化の手段の一つとして、交通からアプローチをすることが有効。

**知恵袋** 行政に頼らず、自分たちの力で交通サービスを担う意識があった

⇒ **医療機関が中心となって導入した中心市街地活性化循環バス[青森県五戸町]**

- ・高齢者の足の確保や中心商店街の活性化は、一般的には公共が担うべきものと考えられることが多い。
- ・しかし、青森県五戸町では、地域の医療機関が中心となり、当初から行政を頼らず、自分たちの人的・金銭的負担だけで、これらの課題に取り組んだ
- ・いわば「新しい公共」の意識を持った人材が地域にいたことが、この取り組みを進める大きな原動力となった。

**知恵袋** もともと商業者自身がまちづくりの検討の場に参画するなど、交通に対する関心が高かった（危機感が高かった）

⇒ **中心商業地区活性化のため、商業者が主体となりバスを運行[京都市]**

- ・商業者は、よるバス取組前から交通問題が、都心部の地盤沈下と関係があることに気づいていたため、まちづくりを通じて問題解決を図るべく、様々な検討の場に参画していた。

**知恵袋** 商店街が広い視点でまちづくりを考え、その中で交通の問題を位置付けた

⇒ **行政に頼らず商店街が独自に運行する市街地循環バス[高松市]**

- ・高松市の丸亀町商店街では、商業の活性化は単に個々の商店の魅力を高めるだけでなく、まちなか居住を促進するなど、広い視点でまちづくりを考えることが必要だと強く認識しており、それに必要な事業にこれまで取り組んできていた。
- ・また、かつてから交通アクセスが重要であるという認識を持っており、商店街が会社を作って駐車場を整備・運営するなど具体的な取組も行ってきた。
- ・そうした下地があったことから、市街地循環バスを走らせることをまちづくりへの投資と捉え、商店街の事業として行うことに内部で合意することができた。